

(女性医師研究者研究成果報告)変性脳疾患におけるグリア細胞機能の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新井田, 素子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00033052

変性脳疾患におけるグリア細胞機能の研究

新井田 素子

東京女子医科大学病理学（病態神経科学分野）講師

略歴

1998年3月 東京女子医科大学 医学部 卒業
1998年4月 東京女子医科大学 神経精神科研修医
2004年3月 東京女子医科大学 医学部 大学院 医学研究科（病理学）修了
2004年4月 東京女子医科大学 医学部 病理学 助教
2006年8月 University of Texas, MD Anderson Cancer Center, postdoctoral fellow
2015年5月 東京女子医科大学 医学部 病理学（病態神経科学分野）講師

研究報告

【目的】

神経変性疾患におけるグリア細胞の変化を検討する。

【方法】

神経変性疾患の一つである筋萎縮性側索硬化症（ALS）に関連した遺伝子変異を持つ生後早期のマウス脳および野生型のマウス脳からグリア細胞の一つであるアストロサイトの初代培養を作製した。また、アストロサイトの細胞株に野生型およびALSに関連した変異遺伝子を導入し、形態学的評価、免疫染色および増殖能の検討を行った。

【結果】

ALSに関連した変異遺伝子をもつアストロサイトは、増殖能の増加および細胞体の小型化を示した。また、ALSに関連した変異遺伝子をもつアストロサイトは細胞質内に凝集体を形成した。

【考察】

ALS 関連変異遺伝子を持つアストロサイトは自律性増殖し、神経炎症に関与する可能性がある。

【結論】

神経変性疾患での病態促進にはグリア細胞が関与することが示唆された。